

# 本校生徒の余暇利用について

補導部 田 辺 啓 三 高 宮 孝 治  
米 谷 数 子 幸 山 彰 一  
光 谷 音 吉 高 瀬 允  
竹 内 昭 樫 本 英 彦

## 一 序

生活指導の万全を期するためには、生徒の生活をできるだけ詳しく、はっきりと知ることが肝要である。そのためには、学校内の実情を知る他に、生徒の思想傾向、家庭における生活の実態などについても、調査が進められなければならない。この線にそつて、本校では研究・図書・補導等の各部がそれぞれの立場で、かつ有機的に研究調査を進めてきた。補導部では、研究部が昨年「生徒の環境調査、特に学習状況」について研究を進めてきたのを受け、学習以外の家庭生活、特にその余暇の実情について明かにすることを本年度の課題とした。このような実情を明かにすることによつて、ホームルームのアドバイザーは、一層適切なホームの生徒指導が可能になると推定されるので、よりよきホームルームの運営のための、貴重な資料ともなると思われ、それがひいては、生徒指導の万全を期するための一助ともなると信ずる次第である。

以上の理由のもとに、余暇利用の実態を明かにすることが、本稿の目的である。しかし余暇について克明な検討は極めて困難な作業であるため、1週間の生活についての記録を対象としてその結果をまとめたために、断定的な結論を下すことができず、その傾向をしかも僅かに一端しかうかがえなかつたことは、われわれの遺憾とするところであるが、われわれの意とするところを賢読していただきたいと思う。

## 二 予 備 調 査

上述の意図のもとに、本校生徒は1日をどのように過しているか、特に余暇と見なされる時間はどれくらいあり、その内容の主なものは何であるかを知るために、比較的平凡な一日の生活を、各学年任意に1ホームずつ選んで調査を行った(表1)。調査の結果2年は翌日に考査があり、3年は受験を控えてややかたよっていたので、1年の資料についてその結果を整理することにした(表2)。これに基づいて、勉強時間と自由時間との相関(表3)自由時間と睡眠時間との相関(表4)勉強時間と睡眠時間との相関(表5)が示された。

表 1

次の項目のうち、必要なものを○印で囲みなさい。

(1) 3 2 1 学年 A B C 組 (2) 性別 男 女

0		1		2		3		4		5		6
6		7		8		9		10		11		12
12		13		14		15		16		17		18
18		19		20		21		22		23		24

1	睡 眠	前夜ねむつた時から翌朝目がさめた時までの時間、但し夜中に目がさめていた時間があればそれを差引く
2	食 事	実際食事をはじめてから終るまでの時間、朝食、昼食、夕食の合計時間、間食があればそれを加える
3	身 仕 度	洗面、着がえ、化粧、ひげそり、用便、散髪、入浴、その他身なりをととのえるに要した時間の合計
4	交 通	自宅から学校までの往復時間、お使い、訪問、おけいこ、買物などのための行きかえりの時間の合計
5	勉 強 教 養	学校外でした予習、復習、宿題、研究、その他の読書、おけいこ等の時間の合計
6	遊 び 運 動	遊戯やその他の運動をした体育の時間、放課後学校で遊びや運動した時間、朝や夕方に家やその他の場所で遊びや運動した時間の合計（散歩も含む）
7	用 事 手 伝	子守、台所の仕事、まきわり、水くみ、買物、配給とり、裁縫、洗たく、掃じ、田畑の仕事、菜園、庭の草とりなどに使った時間の合計
8	自 由	室内娯楽、雑談、新聞、ラジオ、レコード、映画、スポーツの見物などに費した時間の合計、但し往復に要した時間は除く
9	そ の 他	上の何れの項目にもはまらない時間、例えば訪問、来客、治療その他思いがけないできごとの時間の合計

6		7		8		9		10
(記 入 例)	睡眠	洗面、身仕度	掃除(天気がよく庭の掃除)	ラジオ(ニュースをきく)	食事及休憩	読書 朝日新聞 女家族林菜美子		

表 2

24時間中 各生活内容の所要時間 (個人別) 調査資料

調査月日 23年9月8日(日)  
調査人員 本校第1学年生徒  
55名(男38名, 女17名)

睡 眠	食 事	身 仕 度	交 通	勉 強	運 動	用 事	自 由	そ の 他
8 8 10 7 8	1.5 2 1 2 1.5	0.5	3 1	4 8 5 5 5	3    1	1 1.5 8 8	4 3.5  2 6.5	1
6.5 9 8.5 8.5 9	2 0.5 3.5 1.5 1	0.5 1 0.5 1	1.5 1	5.5 3 8.5 4.5 6.5		5.5 1 1	3 6 2.5 8 6.5	3
9.5 9 7 9.5 8.5	1.5 1.5 1.5 1.5 2.5	1 0.5 0.5 0.5 0.5	4.5   0.5	  6.5 5 2	  1.5 3	0.5 0.5 1	7 12.5 6.5 5 6	2  1
9 9 6 7.5 8.5	1.5 1.5 1.5 1.5 1.5	0.5 0.5 0.5 0.5 1.5	3  1	2 5.5 10 4		0.5  5.5	7.5 7.5 14.5 3.5 2.5	0.5  1.5 0.5
9.5 8.5 7.5 10 7	1.5 3 2 2 0.5	1.5 1 1 1.5 0.5	0.5 1	9 4 4.5 5.5 5	   3	2 2.5 1	2.5 5 5.5 5 7	
6 7.5 6 9 11	2 1 2 2 2	0.5 1.5 0.5 0.5 0.5	0.5	6 5 4.5 4 5	 1 1	1.5 1 1 4	8 8 10 6 1.5	
7.5 10 7 8.5 9	1 1 1.5 2.5 2.5	0.5 0.5 1 0.5		7 6 2.5 10 4.5	5 1.5	2.5 1.5 1.5 1.5	3 4 7 1.5 6	2
7.5 7 7.5 7.5 7.5	1.5 2 2 2	0.5 1 1 1	1	6 5 4 4	1 2	2.5 2 0.5	4 7 7 7	1
	7.5 2.5 7.5 1.5	0.5 1	1	5.5 8	2		5 5	1
7 9 7 8 7	1 1.5 1.5 1.5 1.5	0.5 0.5 0.5 0.5 2.5	2.5 1	2.5 4.5 7 6 4.5	 1.5  1	0.5  3 3.5	7.5 7.5 6.5 5 4	2.5
7.5 8 8 8 6.5	1 2.5 2 1.5 1.5	1 0.5 0.5 1	1 0.5	3.5 4.5 2 8 4.5	0.5 0.5  1.5	0.5	11 7.5 10.5 6 8.5	
7.5 8 6.5 8 8	3 1.5 2 1.5 1.5	1 1 1 1 0.5	1 3 1	8 2.5 7 2 4	2.5  2	4.5 5.5 2 4.5 1	1 3 4.5 4 4	2
平均時間 8.2 (男) 7.6 (女)				5.0 (男) 5.0 (女)			5.6 (男) 5.9 (女)	

表 3

勉強時間 (X) と自由時間 (Y) との相関

単位:時間

		$u_i$														
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	$F_j$	$v_j F_j$	$v_j^2 F_j$	$U_j$	$v_j U_j$
$v_j$	X															
	Y	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	$F_j$	$v_j F_j$	$v_j^2 F_j$	$U_j$	$v_j U_j$
-5	1					1			1			2	-10	50	3	-15
-4	2					2				1		3	-12	48	5	-20
-3	3			1	1		1	1		2		6	-18	54	8	-24
-2	4		1		2	1	2		1		1	8	-16	32	5	-10
-1	5				1	1	3	1	1			7	-7	7	7	-7
0	6		1	1	1	2			1			6	0	0	-3	0
1	7	1		1	1	3		3				9	9	9	-1	-1
2	8		1	1		4	2					8	16	32	-3	-6
3	9					1						1	3	9	0	0
4	10					1						1	4	16	0	0
5	11		1		1							2	10	50	-4	-20
6	12											0	0	0	0	0
7	13	1										1	7	49	-4	-28
8	14											0	0	0	0	0
9	15	1										1	9	81	-4	-36
$G_i$		3	4	4	7	16	8	5	4	2	2	55	-5	437		-167
$u_i G_i$		-12	-12	-8	-7	0	8	10	12	8	10	9				
$u_i^2 G_i$		48	36	16	7	0	8	20	36	32	50	253				
$V_i$		17	5	0	-2	2	-6	-1	-8	-6	-6					
$u_i V_i$		-68	-15	0	2	0	-6	-2	-24	-24	-30	-167				

$$\sum u_i V_i = -167$$

$$Nuv = (-5) \times 9 \div 55 = -0.818$$

$$\sum u_i V_i - Nuv = -167 - (-0.818) = -166.182$$

$$\sum u_i^2 G_i - Nu^2 = 253 - 9^2 \div 55 = 251.53$$

$$\sum v_j^2 F_j - Nv^2 = 437 - (-5)^2 \div 55 = 436.55$$

$$\sqrt{251.53 \times 436.55} = 331.37$$

$$V_{xy} = \frac{-166.182}{331.37} = -0.502$$

表4

自由時間 (Y) と睡眠時間 (Z) との相関

	$w_i$	-2	-1	0	1	2	3						
$v_j$	Z	6	7	8	9	10	11	$F_j$	$v_j F_j$	$v_j^2 F_j$	$U_j$	$v_j u_j$	
Y	Y												
-5	1			1		1		2	-10	50	2	-10	
-4	2		1		1		1	3	-12	48	3	-12	
-3	3		1	2	2	1		6	-18	54	3	-9	
-2	4		1	6		1		8	-16	32	1	-2	
-1	5		1	3	1	2		7	-7	7	4	-4	
0	6			2	4			6	0	0	4	0	
1	7		5	2	1	1		9	9	9	-2	-2	
2	8	1	1	2	4			8	16	32	1	2	
3	9		1					1	3	9	-1	-3	
4	10	1						1	4	16	-2	-8	
5	11			2				2	10	50	0	0	
6	12							0	0	0	0	0	
7	13				1			1	7	49	1	7	
8	14							0	0	0	0	0	
9	15							1	9	81	-2	-18	
	$K_i$	3	11	20	14	6	1	55	-5	437		-59	
	$w_i K_i$	-6	-11	0	14	12	3	12					
	$w_i^2 K_i$	12	11	0	14	24	9	70					
	$V_i$	15	0	-10	5	-11	-4						
	$w_i V_i$	-30	0	0	5	-22	-12	-59					

$$\sum w_i V_i = -59 \quad Nvw = (-5) \times 12 \div 55 = -1.090$$

$$Mw_i V_i - Nvw = -59 - (-1.090) = -57.910$$

$$\sum w_i^2 K_i - Nw^2 = 70 - (12)^2 \div 55 = 67.328$$

$$\sum v_j U_j - Nu^2 = 437 - (-5)^2 \div 55 = 436.55$$

$$\sqrt{67.328 \times 436.55} = 171.51$$

$$v_y^2 = \frac{-57.910}{171.51} = -0.337$$

表5

勉強時間 (X) と睡眠時間 (Z) との相関 XZ: 単位時間

		$u_i$														
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5					
$w_j$	$Z \backslash X$	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	$K_j$	$w_j K_j$	$w_j^2 K_j$	$U_j$	$w_j U_j$
-2	6	1				1	1					3	-6	12	-3	6
-1	7			2		5	1	3				11	-11	11	3	-3
0	8		2	1	4	4	3	1	4		1	20	0	0	5	0
1	9	1	2	1	3	3	1	1		1	1	14	14	14	-3	-3
2	10	1				2	2			1		6	12	24	2	4
3	11					1						1	3	9	0	0
$G_i$		3	4	4	7	16	8	5	4	2	2	55	12	70		4
$u_i G_i$		-12	-12	-8	-7	0	8	10	12	8	10	9				
$u_i^2 G_i$		48	36	16	7	0	8	20	36	32	50	253				
$V_i$		1	2	-1	3	3	2	-2	0	3	1					
$u_i U_i$		-4	-6	2	-3	0	2	-4	0	12	5	4				

$$\begin{aligned} \sum u_i V_i &= 4 \\ N\bar{u}\bar{v} &= 12 \times 9 \div 55 = 1.962 \\ \sum u_i V_i - N\bar{u}\bar{v} &= 4 - 1.962 = 2.038 \\ \sum u_i^2 G_i - N\bar{u} &= 253 - 9 \div 55 = 251.53 \\ \sum w_j^2 K_j - N\bar{w} &= 70 - 12^2 \div 55 = 67.382 \\ \sqrt{251.53 \times 67.382} &= 130.11 \\ V_{zx} &= \frac{2.038}{130.11} = 0.0156 \end{aligned}$$

[単相関係数の有意性の検定]

以上に求めた自由時間と勉強時間との相関係数  $r_{xy}$ , 自由時間と睡眠時間との相関係数  $r_{yz}$  及び勉強時間と睡眠時間との相関係数  $r_{zx}$  の有意性の検定を試みる。

$$t = \frac{r\sqrt{n-2}}{1-r^2}, \quad n=55 \quad \text{を使用して}$$

$$\begin{aligned} r_{xy} = -0.507 \quad \text{に対しては} \quad t_{xy} &= -4.28 \\ r_{yz} = -0.337 \quad \text{に対しては} \quad t_{yz} &= -2.60 \\ r_{zx} = 0.0156 \quad \text{に対しては} \quad t_{zx} &= 0.114 \quad \text{を得る} \end{aligned}$$

確率0.05 自由度53  $|t| \geq 1.959$  より検定すると,  $|t_{xy}| > 1.959$   $|t_{yz}| > 1.959$   $|t_{zx}| < 1.959$  故に, 自由時間 (Y) と勉強時間 (X) の間には相関関係がある。又自由時間と (Y) 睡眠時間 (Z) の間にも相関関係はあるが, 勉強時間 (X) と睡眠時間 (Z) の間には相関関係はない。又その95%の信頼限界を求めてみると

$$\begin{aligned} -0.68 < r_{xy} < -0.27, \quad -0.56 < r_{yz} < -0.07, \\ -0.28 < r_{zx} < 0.28 \end{aligned} \quad \text{ただし, 上記検定の結果からみて } r_{yz} \text{ の信頼限界だけはその意味}$$

がない。

〔偏相関係数及び重相関係数〕

$$r_{xy.z} = \frac{r_{xy} - r_{zx} \cdot r_{yz}}{\sqrt{1 - r_{zx}^2} \sqrt{1 - r_{yz}^2}} \dots\dots \left( z \text{を消去したときの} x, y \text{の} \right. \\ \left. \text{偏相関係数} \right)$$

$$r_{yz.x} = \frac{r_{yz} - r_{xy} \cdot r_{zx}}{\sqrt{1 - r_{xy}^2} \sqrt{1 - r_{zx}^2}} \dots\dots \left( x \text{を消去したときの} y, z \text{の} \right. \\ \left. \text{偏相関係数} \right)$$

$$r_{y.zx} = \frac{\sqrt{r_{xy}(r_{xy} - r_{yz} \cdot r_{zx}) + r_{yz}(r_{yz} - r_{xy} \cdot r_{zx})}}{\sqrt{1 - r_{zx}^2}} \quad (y \text{と} x, z \text{の重相関係数})$$

より計算すると

$$r_{xy.z} = -0.533 \quad r_{yz.x} = -0.00824$$

$$r_{y.zx} = 0.604$$

〔偏相関係数の有意性の検定〕

$$t = r \frac{\sqrt{n-3}}{\sqrt{1-r^2}} \quad n=55 \text{により}$$

$$r_{xy.z} = -0.533 \quad \text{に対しては} \quad t_{xy.z} = -4.54$$

$$r_{yz.x} = -0.00824 \quad \text{に対しては} \quad t_{yz.x} = -0.0595$$

故に  $|t_{xy.z}| > 1.959$   $|t_{yz.x}| < 1.959$  となるから、睡眠時間 (Z) を消去したときの勉強時間 (X) と自由時間 (Y) の間には相関きあり、勉強時間 (X) を消去したときの自由時間 (Y) と睡眠時間 (Z) の間には相関はないということがいえる。

偏相関係数の値からみて重相関係数は余り重要な意味を持たないことが予測できるが、この信頼限界を求めてみると次のようである。

$$r_{y.zx} = 0.604 \text{の} 95\% \text{の信頼限界は} 0.752 \sim 0.405$$

なお、自由時間の平均値は5.90時間

自由時間の標準偏差は2.80時間

生徒の余暇利用の調査に先だつて行った一日の生活内容の調査の中自由時間が主として影響を受けると予想される勉強時間と睡眠時間への相関の程度は大体以上のものであった。

なお、24時間の時刻別生活内容度数分布状況を概観すると、睡眠、勉強、自由の3つの項目は次のような結果が示された。(表6)

この表によれば、深夜勉強しておるものが数名見受けられるが、大体の生徒は11時以降は就寝しているようである。また勉強に最も多く集まるのは午後8時~10時であり、午前10時~11時頃がこれについて多い。午後も比較的あるが、全体として午後、夜間の自由時間を持っている生徒が極めて多い。これは、主として午後は映画「昼下りの情事」を観に行った生徒と、スポーツ放送を聞いていた生徒による。夜の自由時間は、日曜のせいもあって、比較的のんびりと過していたようで、平日なら、ほとんどの生徒の学習は夜にまとまる事と思う。しかし、全体としてみた場合、第二表にあるように、睡眠、勉強、自由時間の平均の割合は案外健全な状態にあると思われる。

表6

時	項	睡	眠	勉	強	自	由	時	項	睡	眠	勉	強	自	由
0		34	14	1	2	3	1	13				1	2	20	7
1		33	15	1	1	3	1					5	5	22	4
		32	16	2	1	3		14	1			7	6	18	2
2		32	16	2	1	3			1			9	8	16	7
		33	17	2		3		15	1			13	8	11	7
3		37	17			1						12	6	12	9
		38	17					16				11	6	14	7
4		38	17									15	5	12	7
		38	17					17				13	6	17	9
5		36	17									9	6	18	5
		36	16					18				9	5	17	5
6		34	16	1								1	1	11	2
		32	12	1			1	19				1	1	18	4
7		27	10			5	2					8	1	20	9
		22	6	2		4	4	20				9	7	17	7
8		14	5	3	1	8	2					18	13	15	2
		6	3	7	1	9	3	21	1			21	14	13	2
9		4	2	8	2	7	4		1			21	12	15	4
		1	1	12	6	12	5	22	2	1		26	10	10	6
10			1	17	7	12	4		8	6		21	7	7	3
				17	7	14	5	23	17	8		14	5	7	4
11				19	8	12	4		23	12		8	5	7	
				18	5	8	7	24	29	14		6	2	3	1
12				14	3	11	8		男	女		男	女	男	女
				5	2	20	7								

### 三 余暇利用調査

(表1)の調査の中から、余暇として取上げられるものを選びだすと、1 読書(勉強以外のもの) 2 ラジオ, 3, 映画, 4 趣味教養, 5 娯楽, 6 スポーツ, 7 その他の7項目に大別されるので、この7つの項目について(表7)のような調査を行って、一応余暇利用の実情を検討してみた。(ただし、スポーツについては別に述べる。)その結果(表8)以下のような結果が得られた。

表7

#### I 読 書

一 般 図 書	書 名	1週間の所要時間	読んだ場所	備 考
A 1. 小説, 劇 曲	日本物 翻訳物			
2. 哲 学, 宗 教	日本物 翻訳物			
3. 随 筆, 評 論	日本物 翻訳物			
4. そ の 他				
B 雑 誌				
受 験 雑 誌				
総 合 雑 誌				
婦 人 雑 誌				
ス ポー ツ, カ メ ラ, 芸 能 雑 誌				
ス 電 気, 無 線 雑 誌				
そ の 他				
C 週 刊 雑 誌	よんだ書物に○印をつけよ			
朝 日				
毎 日				
読 売				



産 経			
新 潮			
そ の 他 (書名を記入)			
D 新聞 読んでいるものに○印をつけよ		最も関心ある項目3つに印をつけよ	
北 国		政 治	
北 陸		経 済	
朝 日		社 会	
毎 日		学 芸	
読 売		ス ポ ー ツ	
中 日		趣 味	
産 経		小 説	
ス ポ ー ツ 紙 (新聞紙名)		地 方 版	
そ の 他 (新聞紙名)		そ の 他 (具体的に)	

II ラ ジ オ

	具体的な番組名を書く	一週間の所要時間	備 考
1	ニュース 同解説		
2	話の泉, 二十の扉, 私は誰でしょう		
3	講演, 討論会, 対談等		
4	講談, 落語, 浪曲		
5	放送劇, 舞台中継		
6	歌謡曲, 民謡		
7	音楽 (古典軽の別)		
8	スポーツ放送		
9	受験講座		
10	その他の		

III 映 画

題 名	この週でみた題名に○印をつけよ	誰とみたか(単独, 家人, 友人の別)	備 考
喜びも悲しみも幾年月			
潮風のいたづら			
明治天皇と日露戦争			
ど ん 底			
お茶と同情			
昼下りの情事			
真昼の暴動			
恋多き女			
永すぎた春			
その他の			

IV 趣味 教養 (自分でやっているもの)

	内容を具体的に記入 (一時間の所要時間)
1 華, 茶道	
2 舞 踊 (和, 洋の別)	
3 音 楽, 和洋の別, 声, 器楽	
4 絵画, 書道	
5 カ メ ラ	
6 そ の 他	
7 鑑賞の場合特に関心あるものをあげよ	

V 娛 楽

囲碁, 将棋, トランプ等どんなものを一週間何時間位ついやすか
種 目 ( ) ( 時間)

VI そ の 他

表 8

本校生徒の余暇利用調査

調査月日 昭和32年10月2日～9日 (一週間)  
 調査人員 375名

	一年	二年	三年	合 計
男	99	87	82	268
女	44	33	30	106
	143	120	112	375

I 読 書

A : 一般図書 一週間の読書内容時間数

(1) 図 書 数 (単位 冊数)

	一年		二年		三年		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
小説・日本文物論他	37	35	35	31	28	21	100	87	(187)
随筆・評論	20	13	13	8	7	3	40	24	(64)
その他	8	6	6	5	4	4	18	15	(33)
	4	1	4	2	3	0	11	3	(14)
	69	55	58	46	42	28	169	129	(298)

(2) 読書延時間 (単位時間)

(2) 読書延時間の平均値

	一年	二年	三年	平均値
男	3.84	5.20	4.10	4.36
女	4.80	4.80	4.50	4.75
全体	4.20	5.08	4.20	4.49
標準偏差 S・D	4.13	3.50	2.31	3.94

分布は大体正規型とみなせる。

各学年の平均値の、有意水準0.05 (95%の信頼度) の限界

$$\bar{x} - \frac{\lambda\sigma}{\sqrt{n}} < M < \bar{x} + \frac{\lambda\sigma}{\sqrt{n}} \quad \lambda=1.96$$

1年	4.20±0.69	(3.51~4.89)	(単位 時間)
2年	5.08±0.64	(4.44~5.72)	
3年	4.20±0.44	(3.76~4.64)	
全学年	4.49±0.41	(4.08~4.90)	

(3) 読んだ場所

	人 数	百 分 率
自宅	224	68.0%
学校	45	13.6%
図書	26	7.9%
その他	24	7.3%
その他	11	3.3%

B : 雑 誌

書 名

		一 年		二 年		三 年		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
受験雑誌	高校時代	9	0	10	4	2	0	21	4	(25)
	雪	1	0	8	5	35	21	44	26	(70)
	螢高校コース	4	1	4	2	0	0	8	3	(11)
総合雑誌	文芸春秋	12	8	14	4	11	8	37	20	(57)

その他中央公論, 世界, 知性が若干ある。

婦人雑誌 数は分散しており, いづれも10人以下である。 若い女性, 婦人生活, 婦人公論等

電気無線その他	アサヒカメラ	4	2	8	5	3	1	15	8	(23)
---------	--------	---	---	---	---	---	---	----	---	------

その他ラジオ, 電気関係を読んだもの28名 他にスポーツ, 映画, 画報, リーダースダイジェスト, 邦楽と舞踊等が見られる。

(2) 読書延時間

	一年	二年	三年	全学年
男	2.50	4.30	4.30	3.56
女	2.80	2.33	2.80	2.94
全体	2.59	3.61	4.16	3.30
S・D	1.75	1.54	1.20	1.41

(3) 読んだ場所

	人数	百分率
自宅	120	46.1%
学校	32	12.6
図書館	24	9.2
書店	20	7.7
中	14	5.4
その他	50	19.2

(4) 雑誌読書時間平均値 信頼度95%の限界

1年	2.59±0.35	(2.24~2.94)
2年	3.61±0.28	(3.33~3.89)
3年	4.16±0.23	(3.93~4.39)
全学年	3.30±0.15	(3.15~3.45)

C: 週刊誌

	一年		二年		三年		全体		計 (n)	n/375 × 100
	男	女	男	女	男	女	男	女		
朝日	47	18	30	15	41	18	118	51	169	45.0%
日経	29	7	14	8	23	10	66	25	91	24.2
産経	11	5	4	10	16	7	31	22	53	14.1
新潮	10	3	6	3	15	5	31	11	42	11.2
その他	10	4	9	1	10	4	29	9	38	10.1
計	5	4	2	1	4	2	11	7	18	4.8
計	112	41	65	38	109	46	286	125	411	109.4

読んだ場所

	人数	百分率
自宅	180	62.3%
図書館	72	24.9
書店	15	5.2
中	7	2.1
その他	15	5.2

(度数は、よんだ生徒の人数)

D: 新聞

	一年		二年		三年		全体		計 (n)	n/375 × 100
	男	女	男	女	男	女	男	女		
北陸	100	34	87	31	56	35	243	100	343	91.5%
朝日	11	7	11	3	6	4	28	14	42	11.2
日経	43	18	33	15	35	20	111	53	164	43.8
産経	11	3	17	8	10	5	38	16	54	14.4
その他	6	2	5	4	2	3	13	9	22	5.9
計	10	6	3	2	4	3	17	11	28	7.5
その他	16	10	5	10	4	36	19	55	55	14.7
計	6	1	5	3	9	0	20	4	24	6.4
計	2	0	4	0	2	1	8	1	9	2.4
計	205	81	175	71	134	75	514	227	741	197.8

741/375 × 100 = 198

最も関心のある項目

	一年		二年		三年		n1	n2	計 n	n1/268 × 100	n2/107 × 100	n/375 × 100
	男	女	男	女	男	女						
政治	74	19	55	12	62	16	191	47	238	71.2	44.0	63.5
経済	4	3	24	4	15	2	43	9	52	16.0	8.4	13.9
社会学	68	32	60	18	36	15	164	65	229	61.2	60.8	61.1
スポーツ	27	20	25	12	21	10	73	42	115	27.3	39.3	30.7
趣味	71	12	45	20	48	15	164	47	211	61.2	44.0	56.5
小説	13	15	16	13	15	10	44	38	82	16.4	35.6	21.9
地方	29	21	21	15	36	14	86	50	136	32.1	46.8	36.3
その他	10	7	6	5	3	2	19	14	33	7.1	13.1	8.8
計	1	3	9	0	10	6	20	9	29	7.4	8.4	7.8
計	297	132	261	99	246	90	804	321	1125	300	300	300

II ラジオ

1週間の聴取時間 (単位 時間)

	1年	2年	3年	全体
男	6.98	6.14	5.40	6.21
女	4.52	4.82	4.10	4.50
全体	6.25	5.77	5.04	5.73
S・D	4.22	2.41	1.60	3.83

II ラジオ

1週間の聴取時間

各学年別平均値の信頼度95%の限界

1年	6.25±0.37	(5.52~6.98)
2年	5.77±0.44	(5.33~6.21)
3年	5.04±0.30	(4.74~5.34)
全学年	5.73±0.40	(5.33~6.13)

		1 年		2 年		3 年		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
1	ニュース	81	34	69	29	52	21	202	84	286
2	クイズ (私は誰でしょう, 話の泉, 20の扉)	71	15	58	31	24	8	153	54	207
3	講演, 討論会等	44	14	22	8	24	10	90	32	122
4	寄席番組 (講談, 落語, 浪曲)	35	6	18	8	5	0	58	14	72
5	放送劇, 舞台中継	48	16	33	8	18	12	99	36	135
6	音楽 (歌謡曲, 民謡)	54	23	44	20	13	7	111	50	161
7	音楽 (古典, 軽音楽)	28	18	25	20	31	15	84	53	137
8	スポーツ放送	42	9	25	6	18	8	85	23	108
9	受験講座	6	4	12	3	26	6	44	13	57
10	その他	15	11	24	7	9	5	48	23	71
	計	424	150	330	140	220	192	974	382	1356

III 映 画 当週間内に観たもの

	1 年		2 年		3 年		計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
喜びも悲しみも幾歳月	29	6	24	5	15	3	68	14	82
潮風のいたざら	2	2	6	3	2	0	10	5	15
明治天皇と日露戦争	2	1	2	0	1	2	5	3	8
どん底	1	4	2	2	1	1	4	7	11
お茶と同情	3	0	2	1	2	2	7	3	10
昼下りの情事	1	0	2	0	2	5	5	5	10
真昼の暴動	4	0	5	0	2	2	11	2	13
恋多き女	0	0	3	5	0	0	3	5	8
水すぎた春	3	2	3	0	2	2	8	4	12
計	45	15	49	16	27	17	121	48	169

誰とみたか	1 年		2 年		3 年		n <sub>1</sub>	n <sub>2</sub>	n	n <sub>1</sub> × 100	n <sub>2</sub> × 100	n × 100
	男	女	男	女	男	女	男	女	全体	121	48	169
単家	22	3	24	3	20	5	66	11	77	54.5	23.0	45.5
友人	14	5	10	5	2	2	21	12	38	21.5	25.0	22.5
友人	9	7	15	8	5	10	29	25	54	24.0	52.0	32.0
計	45	15	49	16	27	17	121	48	169	100	100	100

IV 趣味, 教養 (度数は自分でしているもの的人数)

		1 年		2 年		3 年		全 体	
		男	女	男	女	男	女	男	女
1	華, 茶 道		1		5		2		8
2	舞 踊		2		2		2		6
3	ピアノ		3		3		4		10
	音楽その他の洋楽 琴, 尺八, 長唄		7		10		3		27
4	絵 画		2		1		13		2
	書 道		2		1		7		2
5	写 真		1		5		3		8
6	そ の 他 (各種のコレクション)		5		2		10		2
			5		2		10		15
			2		10		2		4

7 の項目は, それぞれ該当している種目の中に含ませた。

## V 娯 楽

	1 年		2 年		3 年		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
囲将ト麻花	8		9		3		20	0
ラ	15		14		2		31	0
ン	3	2	5		3	1	11	3
基棋ブ雀他	1		3				4	0
札	2		1				3	0
その他								

### I 読 書

図書の分布はほとんどが小説にむけられていて、哲学的なものが全く見られなかった。高学年につれて数が減っているのも当然と思われる現象であるが、受験のため制約されているゆがめられた姿が感ぜられる。作家、作品で多いのは、漱石（20名）藤村（9名）有三、秋声、花袋、独歩、康成らであり、三四郎、たけくらべ、あらくれ、暖簾、新平家、斜陽など、随筆では、ロンドン東京五万キロである。雑誌（週刊雑誌を除く）については、刊行日の関係で、この調査でその実情を知ることは無意味に近いと思われたが、参考までにのせておいた。受験雑誌に多くの生徒が目を通している（特に3年生）ほかは、目立った現象は見られない。

一般図書と雑誌との、一週間の読書延時間を見ると、一・二年生では配当時間の比率が一般図書に多く三年生が雑誌に多い現象は、三年生が受験雑誌を多く読んでいるためで、ここにも受験の抵抗が感じられる。この他、週刊誌、新聞等の読書時間を含めると、生徒の余暇の大半は読書ということになるのは当然であるが、その割からいうと、一般図書、人間形成に必要な、広い豊かな視野を深める読書生活を送るために、一般図書にもっと多くの関心を払わなければならないことを痛感する。

### II ラ ジ オ

ラジオの聴取時間は比較的多く、一日平均一時間弱ということになり、よく利用されているといえよう。しかし、学生の中には勉強しながらラジオを聞いている者もいるということだし、ラジオの番組も娯乐的なものにも相当数が集まっている実情からしても、あるいは読書時間との関係などからいっても、これだけの時間が費されていることは、特に悲しむべき現象ではないとしても、もしこれだけの余裕があるならば、読書時間をもう少しふやすとか、何か他の趣味教養的なものに向けたらよいのではないと思われる気がする。あとにも触れるが、趣味的なものを行っている生徒が予想外に少なく、スポーツなどは特に悲しむべき現象を呈しているのも、特にこの点が気になる次第である。

番組のなかで多いのを拾ってみると、話の泉（86名）私は誰でしょう（72名）野球放送（62名）素人のどじまん、花くれれない、20の扉（各40名前後）、他に、歌謡曲、民謡はどの番組にも非常に多い。

### III 映 画

調査を実施した週に上映された映画の主な題名をかかげてみた映画に○印をつけさせた

ので、この調査では一週間に何人位みるかという実態以外に、あまり効果は望まれなかった。その結果、約 0.5人の生徒がみる計算になり、当初こちらで予想した数よりは下まわっている。もっとも再映されたものもあるので、「昼下りの情事」とか「明治天皇と日露戦争」などは、相当多くの生徒がみているようである。

#### IV 趣味 教 養

以上の他に、生徒が行っている趣味教養の主なものを拾ってその人数を調べたのであるが、全体の数が極めて少ない。本校の生徒は小、中学校時代は、相当数の生徒が何かを嗜んでいるのであるが、高校に入ってもそれを継続している生徒がはるかに減っていることがわかる。これなども、高校生の制約された生活という現象がみられるのではないだろうか。なお、調査項目の第7項は、該当するそれぞれの項の中に含めた。

#### V 娛 楽

一応調査のような結果で、男生徒は相当このような室内娯楽を楽しんでいる者がいるようだ。

#### VI そ の 他

以上の各項に含まれないものとして、学生間で相当高い比率を占めていると思われるものに、交友関係、散歩、家庭内の談話、その他あるわけであるが、その調査法も、またその結果も的確を欠くので、この点は省略する。ただ、交友については、各学年とも10名前後の生徒が毎日若干時間あるようであった。これらの点については、改めて詳しく調査を進めて行かなければならないと思われる。

#### VII 運動, スポーツ

最後に運動、スポーツについてみると、これも限られた一週間であるために、生徒の一断片をのぞくだけで、これをもって全般を推す事は無暴であるが、運動、スポーツに当てた時間とその種目を調査したので、多少の検討を加えてみたい。なお、前述の新聞等と重複しているものもあるから諒承願いたい。

調査項目は毎日記入してゆかないと困るような型式はさけて、記憶によっても書けるように考慮した。(表9)

1. A年月日(月→金までの5日間)の放課後

B土曜の放課後と日曜日に運動、スポーツを行うに当てた時間とその種目

2. A生徒の試合を見るに当てた時間とその種目

B新聞記事等のスポーツ関係事項を見、読んだ場合にはその種目

以上のように大別し、その間における細部については質問しなかった。

表9

1. 月曜から金曜までの五日間に運動およびスポーツに当てた時間の一日当平均と、その種類。また学校以外のクラブあるいは場所で練習した場合は備考欄へ具体的に記入して下さい。

① 5日間の練習平均時間	② その種目	③ 備考
時間		

2. 土、日曜に運動及びスポーツに当てた時間の一日当り平均と、その種類、およびその練習場所。  
 なお、学校外の場所で学友外の人達と練習をした場合には備考欄に具体的に記入して下さい。

① 練習平均時間	② 種目	③ 試合練習場所	④ 備考
時間			

3. 実際に試合を見た人は、その場所と種目と何時間位見たかを記入して下さい。

① 試合場	② 種目	③ 時間	④ 備考

4. 新聞スポーツ欄、映画スポーツニュース、テレビスポーツ番組等を見るに当てた時間と種目。備考欄には新聞、映画、テレビの別を書いて下さい。

① 時間	② 種目	③ 備考

以上のような表で調査した。聞く方は別にラジオの項で調査記入済みであるので、ここではふれない。調査の結果は(表10)の通りである。

表10

スポーツに関する調査

1 平日のスポーツに当てた時間と種目														
		バレー	野球	柔道	サッカー	バドミントン	バスケットボール	馬術	卓球	ソフトボール	テニス	すもう	マラソン	参加者
1年男	人数 時間	9 2.0	7 1.5	8 1.0	5 2.0	4 1.0	2 1.0	2 1.5	4 1.0	2 1.0	8 1.5		1 0.5	61%
2	人数 時間	1 1.5	市役所 2 2.0	3 1.5	3 2.5	4 1.0	1 1.0	2 1.0	1 1.0		5 1.5	自宅 2 1.0		22%
3	人数 時間	1 1.0			1 1.0			1 0.5		13 1.5				クラブ 2% その他 15% 44%
1年女	人数 時間	12 1.0							2		6			44%
2	人数 時間	8 1.0				1 1.0					兼六2 2 1.5			43%
3	人数 時間	1 1.0				1 1.0								女子なし

土、日のスポーツに当てた時間と種目

1年男	人数 時間	6 3.0	6 2.0	5 2.0	5 1.5	6 2.5	2 2.0	2 2.5	5 2.0	2 1.5	9 3.0			54%
2	人数 時間				2 2.0	1 2.0	1 2.0	1 3.5	1 1.0		3 3.0			17%
3	人数 時間	1 0.5				1 1.0								6%
1年女	人数 時間					1 家				1 家	3			10%
2	人数 時間					1 小学校			1 1.0		1 3.5			10%
3	人数 時間													なし

スポーツに関する新聞、記事、ニュース映画等をみた時間と種目

		野 球	陸 上	競 馬	すもう	プロレス	サッカー	アメリカンフットボール	新スポーツ欄	開欄
1年男	新映 人数 時間	28 20 8	1		4 2 2	3 1 2			5 5	5 5
2	新映 人数 時間	27 22 5			4 1 3	1 1		1	10 10	10 10
3	新映 人数 時間	15 14 3	2 2	2 2	1					1
1年女	新映 人数 時間	7 4 3	2 2							
2	新映 人数 時間	4 2 2	1 1	1						
3	新映 人数 時間	5 2 4	1 1		2 2	1 1	1 1			

(大きい数は総計)

試合その他を見た時間と種目

		本校で試合 サッカー	中学試合 野 球	庭 球	柔 道	バトミ ン	ラクビー	%
1年男	人数 時間	3 1.0		1 1.0	1 1.0	2 8.0	試合	7
2	人数 時間	1 3.0	1 3.0	1 0.5	1 0.5			4
3	人数 時間	3 1.5					1 1.5	3
1年女	人数 時間		2 1.5					
2	人数 時間			1 2.0		1 2.0		
3	人数 時間							

以上の表から見られることは、

1. 全般的にみて関心が高いということは出来ない。1年生でクラブに入っている者以外は運動やスポーツを楽しむという機会には殆んど恵まれていない。
2. 1年のクラブに参加している者は割合多い。
3. 2年3年になると急激に減るのは色々と考えさせられるものがある。もっとも2年生の一部には月曜日に行われる語学の試験の為、平生と多少違った生活をし、その影響もある。しかし2年の一学期でクラブ活動を止めて受験準備に切り変える気風は年々増し



て行くのは一考に価する現象である。

4. 3年生にはサッカー部に1名を残すのみで他は全然クラブ活動もその他の運動も行っていない。体育の授業が唯一の身を動かす時間ではないかと推測される。
5. 女子についてはバレー部以外にクラブがない故もあるが、運動する者しない者の差は極端である。バドミントン、テニス等をもっと奨励していいのではないか。
6. 見る方の興味には各学年を通じて殆んど向いていない。1年生においても身体を動かす方に興味が向けられている。
7. プロ野球、六大学野球に関する興味は絶対的なまでに高い。新聞を見るのも殆んどこの方に向いている。他の種目に対する、広い鑑賞眼をもたせる必要がある。

以上幾つかの表から見取れる特徴を書き上げてみたが、極めて小さな調査から何かを引き出そうとすると、とかく推論の域をはみ出しがちであるが、今後の方針を樹てるために敢えて結論を引き出してみよう。

1. 2年3年生にもっと行い楽しむ精神的な余裕を与えねばならない。特に2年生には。
2. 女子にも自己に適した種目を見付け出すことが出来るように多くのクラブを設けてやる必要がある。
3. 更には予算の裏付けを必要とする問題ではあるが、校内施設の拡充も考慮しなければならない。
4. 家庭の関心を高める必要がある。2年3年が運動をしないという問題には父兄の圧力も考えられる。しかし、それより、釣やバドミントン、テニス等一家揃って楽しく行うようになれば更に異った気分が出来てこよう。
5. 調査時には当地方においてはテレビは見られなかったが、昨年末よりこの面に見る楽しみが増したことは確かである。更にこれから行う楽しみに移行してくれればと思う。

## 四 結 び

以上の調査には第一に、限られた一週間の生活記録を唯一の資料としたこと、第二に、調査の方法がその内容に即して行われたために一貫した方法がとられなかったことなど相当に大きな欠陥が残されているけれども、われわれはこの調査によって、少くとも今までよりは生徒の実態を把握したと考えられるし、あるいは直感的に従来感じていたことが、ある程度客観的に信じうるようになった点など、何らかの点でやってよかったと思う次第である。

一体、生徒はどれくらいの余暇を持っているだろうか、昨年の研究部の調査によると、学習時間が1年3.0時間、2年3.1時間、3年5.4時間という平均があらわれた。睡眠や食事その他、毎日要する所定の時間や、学習時間を除くと、3時間前後が余暇と見なされる。この時間をいかに有効に過したらよいかということが当面の問題となるようだ。本校の生徒の場合、以上のような資料によれば、全般的にはきわめて穏当な、あるいは健全に近い生活を送っているとも言われるようだが、その半面、既に繰返し述べてきたように、果してこういう生活が高校生の望ましい姿であろうかという反問が起ってくる。第一に、新聞、雑誌、ラジオ（更にテレビが本市においても普及しはじめてきている）映画等、いわゆるマスコミの影響が、生徒の生活を大きく支配している点、第二には、受験の圧迫にゆが

められている点、この二つはいずれも現実の社会では、あるいはどうしても避けられない現象であるかも知れないが、われわれの学生時代とくらべると格段の相違が感じられる。読書とスポーツ、それになにか身につく趣味にいそしみ、書物などでも、じっくりと鵬外全集やシェクスピア全集に読みふけり、あるいは日の暮れるまでバスケットや野球で汗を流した学生時代がやはり懐しい追憶として残る。今の高校生は果してこれで幸福と思い、満足と感じているだろうか。卒業した連中は、一様に口を揃えて高校時代をもっと意義深く送りたいと洩らしている。マスコミは社会人としての常識を提供してくれるかも知れないが、豊かな人間性を養うものはもっと別なものでなければならない。受験の為の学習は努力と精進の習慣を身につけるかも知れないが、学問の正しい追求はともすると見失われてしまう。よい会社に入るためによい大学へ、よい大学へ入るためによい高校へ、そしてそれはすでに小学校、幼稚園から、親たちの悲しい願いであり、本人もいつのまにやらその考えになりきってしまうところに、私はなんとも言えない現代の人間苦を感じるのである。人間の悪業を感じるのである。人間の苦しみとは、もっと別な意味のものでなければならぬ。高校時代は、教養ある社会人としての基礎能力——底力を養成しなければならないと信ずる。この事を思って、前述の調査資料を眺める時、一応健全な生徒の生活が、あまりにも無気力な、意欲のない生活である事を、しかもそれが殆ど宿命づけられている事を悲しく思う。高校生活が決して単に次の生活のための準備時代だけでなく、それ自体、一つの目的をもった完成時代である事ははっきりとたしかめねばならないと思う。

余暇利用についてなお一言いうならば、余暇というものは生まれるものではなくて、自分で創りだすものだと思う。この調査は平均の姿を主として眺めてきたが、個々の資料についてみると、極めて旺盛な自主性を発揮している生徒もしばしば見受けられたのである。これらについては来年度の生徒指導について重要な示唆を与えてくれる事と思うが、繁を避けて省略する。なお、細部の点に関しては、それぞれの資料を御覧読下される事をお願いして筆をおく。

(追記、本稿は補導部全教官がその問題設定にあたって協議し、仕事を進めたのであるが、ほとんどの統計について、精密な検討を加え、この調査をまとめて下さったのは米谷数子先生であり、運動、スポーツに関しての資料をまとめて下さったのは幸山彰一先生である。その他、種々の整理には補導部全員の協力をいただいた。ここに厚く感謝します。

なお、結論には私見が相当に入っているので、もしあやまちを犯していたならば小生の責任である。=田辺啓三記)

